

第5回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」における主な発言

【NAGOYAビジョンについて】

- 4つの柱と名古屋市が持つポテンシャルが記載されているが、そこに課題が記載されていてもよいのではないか。
- 「誰もが自分らしく生きる」というコンセプトであり、「誰もが」というのが大事であるので、特定の人ではなく、視野を広く持って取り組んで欲しい。

【めざすまちの姿について（総論）】

- 成果指標の項目が、めざすまちの姿の実態を表したものになっているか、検証が必要だと思う。
- 成果指標の目標値は、2026年の目標か、その後の目標か、整理する必要がある。
- 成果指標やその目標値については、変化していくものであり、将来像に向けたプロセスは段階的に考えていく必要もある。最終結果だけでの評価ではなく、途中段階の考え方を示していくことも大切である。
- サブタイトルに「アジアとともに」とあるが、例示されている具体的な取組からはその姿勢が感じられない。「アジアとともに」というスタンスが反映される具体的な取組を入れていくべき。
- 主な取り組みは、今後8年間を考えると、あげられているものがずっと有効であるとは限らない。取り組みの追加や優先順位の変化もあり得る。大きなゴールは変わらないが、それに向けた活動は変わっていく。取り組みが柔軟に変わっていくことへの対応も必要である。
- 主な取り組みの書き方について、総合計画からの引用だけではアジア競技大会との関係性が読めない。まちの姿の全体を説明するリード文で自由に発想できるような形だともっと良くなる。

【まちの姿1（健康・地域活力）について】

- 取り組みの方向性リード文が、アジア競技大会との関係がかけていない部分がある。書きぶりを揃える必要がある。
- 子どもの写真を多く使っているが、どの世代に対してもスポーツは必要であり、幅広くみながら写真も選定して欲しい。
- スポーツ実施率の課題は、30歳代の低さである。子どもだけではなく。この世代のことも考えていく必要がある。

- 健康に関する記述の部分は子どもへの言及が多いが、「健康長寿が実現したまち」を目指すなら、高齢者が健康であることも重要なので、このビジョンでも高齢者に向けたメッセージは大切ではないか。
- どの取り組み内容もアジア大会らしさに欠けるので、ここでしかできない取り組みを、名古屋版として実施してほしい。例えば「ゆるスポーツ」、「超人スポーツ」、「名古屋の未来の運動会（仮称）」などを活用し、多世代間交流の場となる「楽しさ」を目的とした新たなアジア大会版を設定することが今後の名古屋市の運動実施率にも繋がると考える。

【まちの姿2（誇り・魅力）について】

- ビジョンの中に「シティプロモーション」「シティマーケティング」といった言葉があってもよい。
- 名古屋の魅力は安全・安心して住めるまちであるということ。隠れた魅力をパッケージ化して安全・安心などを測れる指標を準備しておくことも必要である。アジア競技大会、スポーツ、健康などをきっかけにして、この指標の数値が上がるようになるとよい。

【まちの姿3（国際交流・多様性）について】

- 地域の国際化に対応できる名古屋市職員の人材育成などの取り組みを入れてもいいのではないか。
- ビジョンに男女平等に関する事業が無いことに違和感があったので、取り組みとして掲載してもらえてよかった。

【まちの姿4（イノベーション・持続可能性）について】

- 選手村の後利用は、このビジョンやその政策をシンボリックに表示していく場所にして欲しい。様々な用途が検討されると思うが、アジア競技大会やこのビジョンがまちづくりの第1歩だったということが後世に示されることが望ましい。
- イノベーションにおいては、アントレプレナーの育成も大切だと思う。学生と一緒にワークショップ等をしながら、アジア競技大会に向けたイベントを一緒に組み立てていくような機会も設けていきたい。
- 取り組みを見ているとイノベーションの推進にかかる指標を入れる必要があると思う。当地域は、ICT企業が他地域に比べ少ないので、イノベーションにつながる観点から、ICT企業の集積件数の成果指標を入れてみてはどうか。
- ロンドンの様に選手村の整備を通じて街が再生するようなことがあるといい。PPP など

による民間資本によるスキームで開発が進むといいと思う。

【全体を通した意見】

- SDGs とスポーツの深い関係が分からない。SDGs とスポーツの関係は、もっと丁寧に説明した方がよいと思う。
- 最近ではSDGs のロゴを掲げるだけで意味を理解していないケースも見られる。それぞれの取り組みがどのようにSDGs の達成につながるのかを提示していくべきである。
- アジア競技大会は一過性のイベントだが、大会開催までの日々の努力はスポーツに通じる部分がある。大会と日常活動を融合させたまちづくり、SDGs への貢献により、アジア競技大会を招致した意義を示していく必要がある。
- ワールドマスターズゲームズ関西では、大会を機会に地域課題を解決する取組を学生が主体となって行っている。その他、ボランティアの活性化、活用なども取組として考えられる。
- 現在の学生が 30 歳くらいの時にアジア競技大会が開催されることになるので、学生などの若い世代にこのビジョンを浸透させる必要がある。